火山列島硫黄島の火山現象調査図（付図説明）

著者	高橋 博, 熊谷 貞治
雑誌名	国立防災科学技術センター研究速報
号	23
ページ	17-18
発行年	1976-03-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1625/00002740/

551.21(528.1)

２－１　火山列島硫黄島の火山現象調査図（付図説明）

高橋　博・熊谷貞治
国立防災科学技術センター

Research Map of Volcanic Activities and their Accompanying Phenomenona of Iwo-jima (Sulphur Island), Volcano Islands

By
Hiroshi Takahashi and Teiji Kumagai
National Research Center for Disaster Prevention, Tokyo

要　　旨

この図は硫黄島にみられる火山性諸現象の当センターによる調査・観測状況と，その結果を示したものである．すなわち，①戦後活動した多数の断層（断裂）の分布．②それらの中，変動量を定期的に観測している地点，③島の隆起に関係して生じた1968年以後の海岸線の変化状況，④噴気（一部温泉）の温度の観測点（定期観測点を含む），⑤温度変質帯，⑥地震及び微動の観測実施地点，⑦地層年代をはかるための炭化木の採取地点等である．

この図は当センターによる硫黄島の火山現象の調査・観測の状況とその結果を図示したものである．その内容は，(1)戦後活動した断層（断裂）の分布（現地踏査による），(2)断層の変動量の定期観測点（Ｄ１～１０），(3)海岸線の変化（1968～1972年の間），(4)噴気または温泉温度の定期観測点（Ｆ１～６）と不定期観測点，(5)温泉変質帯，(6)地震と微動観測点，(7)地層年代測定用炭化木採取地点などである．基図には国土地理院発行の国土基本図ＸＩＶ－硫黄島－１～４（5000分の１）を用いた．

（１）断層分布：これは，この報告書に記述した戦後活動した断層（断裂）で，現地踏査により，その分布を直接調べたものである．従って地質時代に活動した断層は記載していない．なお，空中写真判読により，これらの断層につながるか，または，それと同系統と思われるものも記した．旧千鳥飛行場跡の森本ら（1969）の命名したＡからＦまでの断層は，その後の植生や土砂による埋没と土石採取等により滑走路上の標識が不明となったものが一部あるので判明している断層のみ呼称で付した．なお，ここに記した断層は1968年８月の調査当時のもの

である．1975年現在，北部地域には，この図に記載されていない断層が1ないし2存在する．

（2）**断層変動量定期測定点**：上記諸断層の中，主なものにつき断層変位簡易測定装置（別報25－28）により定期的にその変動量を測定している地点である．

（3）**海岸線の変化**：海岸線の変化は島の隆起状況を知る上で重要なデータである．1968年作成された国土基本図硫黄島1～4の海岸線を基準として，それ以後，1972年12月までに作成された地形図（防衛施設庁が1970年作成した5000分の1地形図）や空中写真（海上自衛隊により1972年12月に撮影された10,000分の1空中写真）から各時期ごとの海岸線を記した．井土ケ浜海岸の慎洋丸は1972年10月に地図上の地点で座礁した．今後の島の隆起を知る測点となると考えられる．1975年6月には写真にみるように，船はすでに海岸の砂浜の中にある．

（4）**噴気（温泉）温度観測点**：1968年以来観測を行ってきた地点で，観測点F1～6は定期的に観測している所である．観測点の中には噴気が止まり，現在観測されていない所もある．

（5）**温泉変質帯**：現地踏査や空中写真により調査した，温泉変質帯である．

（6）**地震と微動観測点**：地震や微動の観測を行なった地点である．これまでに地震の連続観測を行なった所は二段岩，旧気象室と武蔵野壕の3箇所である．1975年度から武蔵野壕で地震の常時観測が防衛庁により行なわれる予定である．観測点が地下壕の場合は坑口の位置を示した．

（7）**炭化木採取点**：凝灰岩中で1974年と1975年に炭化木を発見し，年代測定を行なった．

（8）**地名等**：地名は原則として国土基本図によった．例えば当図の「馬の背岩」は，国土地理院発行の，1／25,000地形図と水路部発行大洋水深図1／30,000には「離岩」と記載され，大本営参謀部発行1／10,000地形図には「馬の脊岩」と記されている．断層変動及び噴気温度観測点は海上自衛隊硫黄島気象班の呼称を用いた．その他については旧日本軍守備隊の陣地名や1968年以来調査に際して慣用的に用いている呼称に従った．高度や等高線は国土基本図に従った．したがって1968年8月測量時の高度である．

（1976年1月30日原稿受理）